

標 題：

コンピュータの 2000 年問題及び
GPS問題について(その3)

NKテクニカル インフォメーション

No.: No. 279

Date: 平成 10 年 9 月 10 日

関係各位

コンピュータの「2000 年問題」について、先に弊会のテクニカルインフォメーション No277(平成 10 年 8 月 11 日)及び No.278(平成 10 年 8 月 31 日)にて、その概要と弊会が実施したアンケート結果等についてお知らせ致しました。続いて、「2000 年問題」への対応策について第3報としてお知らせ致します。(項番号はテクニカルインフォメーション No278 の続きとしています。)

6. 「2000 年問題」に対応するための指針

船舶の「2000 年問題」の対策として、本船のコンピュータシステムやマイクロチップ(埋め込みチップ)が内蔵されているシステムの総点検を事前に行い、異常を起こす可能性があるシステムについて、そのプログラムを書き替えることや、マイクロチップを交換する等の措置が、必要とされます。特に、操舵装置や主機操縦装置等の重要機器については、徹底的に点検調査を行い、対策を講じる必要があります。

近年の船舶では、ほとんどの機器の制御用に、マイクロチップが使用されています。一般にマイクロチップは、クロック機能を内蔵していたとしても、それ自体に問題はなく、その利用プログラムによって問題が発生するといわれており、そのプログラムを作成した人にしか、問題発生の有無を判断できません。このため、船舶に装備されている全てのマイクロチップを内蔵したシステムのプログラムの内容及びその動作の総点検を完全に行うことは、難しいことと思われます。また、「2000 年問題」が、あるマイクロチップを内蔵したシステムに生じた場合、その影響が単なるその機器の誤作動にとどまるのか、あるいはシステム全体の機能停止につながるのか、予測できないと専門家は指摘しています。このような状況において、「2000 年問題」の対策を全て実施したつもりでも、不測の事態が生じ、最悪の場合は機器の機能停止に起因し、全システムが機能停止することを、想定しておく必要があります。この万一の場合に備えて、「2000 年問題」の対応策を準備することを推奨します。

この「2000 年問題」は、船舶の用途や大きさに無関係に全ての船舶に共通の問題です。そこで、少しでも関係者のお役に立つように、弊会は、「2000 年問題に対応するための指針(例)」を試作し、弊会のホームページ(<http://www.classnk.or.jp>)のカラム"Year 2000 Problem"に掲載しておりますので、ご利用下さい。但し、このモデルは単なる一例ですので、貴社の管理船舶に適用した場合に、その完全性を保証するものではありません。貴社におかれましては、万一の不測の事態に対して適切な対応ができるように、例えばこのモデルを参考とし、貴社の実情に即した

ClassNK

財団法人 日本海事協会

東京都千代田区紀尾井町4番7号 〒102-8567

このテクニカルインフォメーションは貴社のお役にたてばと思って情報を提供するものです。必要に応じて貴社のご判断、責任においてご利用下さい。疑問についてはいつでもご相談下さい。

「2000 年問題に対応するための指針」を作成し、本問題に対応されることをお勧めします。
なお、この「2000 年問題に対応するための指針(例)」をお開きになりますと、会社や船舶がこの
問題に対応する「具体策(例)」も掲載されていますので、併せてご利用ください。

本件に関し、ご不明の点がありましたら、下記にお問い合わせ下さい。

(財)日本海事協会 2000年問題プロジェクトチーム
(材料艤装部 ED部門: 角田、村上)

Tel: 03-5226-2020 Fax: 03-5226-2019 e-mail: eqd@classnk.or.jp

VOID